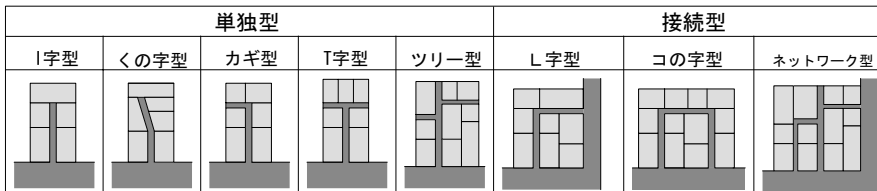


(図1) 職住共存地区と袋路の分布、計画対象敷地



(図2) 平面形による袋路の分類



(図3) 入口断面形による袋路の分類

	平面形							合計	
	単独型				接続型				
	I字型	くの字型	カギ型	T字型	ツリー型	L字型	コの字型	ネットワーク型	
A地区	50	4	10	7	3	1	1	0	76
B地区	18	7	7	2	2	1	0	0	37
C地区	74	10	17	6	3	1	6	0	117
合計	142	21	34	15	8	3	7	0	230

	断面形			合計
	青空型	屋根型	トンネル型	
A地区	31	22	23	76
B地区	16	12	9	37
C地区	51	19	47	117
合計	98	53	79	230

	門扉の有無		合計
	あり	なし	
A地区	28	48	76
B地区	16	21	37
C地区	38	79	117
合計	82	148	230

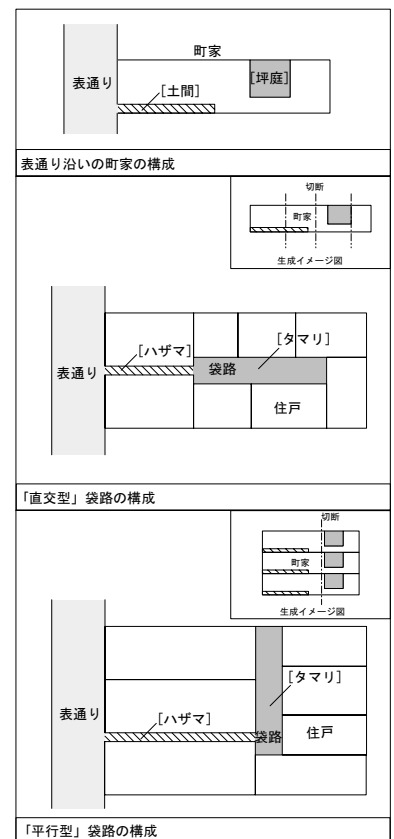
(表1) 袋路分類の集計結果

【袋路調査】 職住共存地区全てを含む幹線道路に囲まれたAからEまでの5つの地区において分布調査を行った(図1)。その結果315事例が確認され、袋路が多く存在する地域は小規模で老朽化した住宅が多く、少ない地域は閑静な住宅街か商業地域であるという分布状態と地域特性に相関関係が認められた。

【分析Ⅰ 類型化】 袋路形状を平面形(図2)と入口上部の形状(図3)に基づき分類し、表1にまとめた。平面形では折れ曲がりや幅員の変化によって、奥行き感と親密さが醸し出されていた。入口上部の形状は路地の開放性を左右する役目を担っていた。

【分析Ⅱ 袋路と町家の空間構成の差異】 袋路は表通りから町家の隙間を抜けるための狭く暗いすぼまった空間である「ハザマ」と、そこを抜け空が見え長屋が面するやや広い空間である「タマリ」の二つの空間に分けることができる(図4)。これは表通り町家の土間と坪庭の関係に近いが、空間性に顕著な差異がある。町家では土間は玄関にもなり多くの人が入り、裏庭は隔離された景色や採光のためにある。一方、袋路のハザマとタマリは連結しており、他人の入れる空間で各住戸の前庭的役割も担っている。

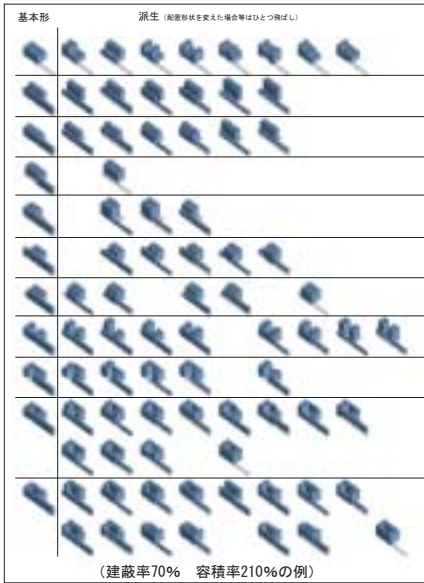
【分析Ⅲ 袋路の構成による空間性の違い】 袋路と住戸の関係を見ると、ハザマとタマリが直線状に接続し表通りに対し直交している「直交型」と、ハザマが折れ曲がり、タマリが通りに平行している「平行型」の二つに大きく分けられる(図4)。「直交型」は大きな町家を表通りに平行な線で細かく分割したような状態であり、タマリの両側に長屋が面する 경우가多く、共有的感觉が強い。「平行型」は表通りに連続する町家の離れを坪庭部分で切断し、坪庭をタマリに、離れを長屋にしたような状態であり、タマリの片側だけに長屋が面する 경우가多く、占有的感觉が強い。



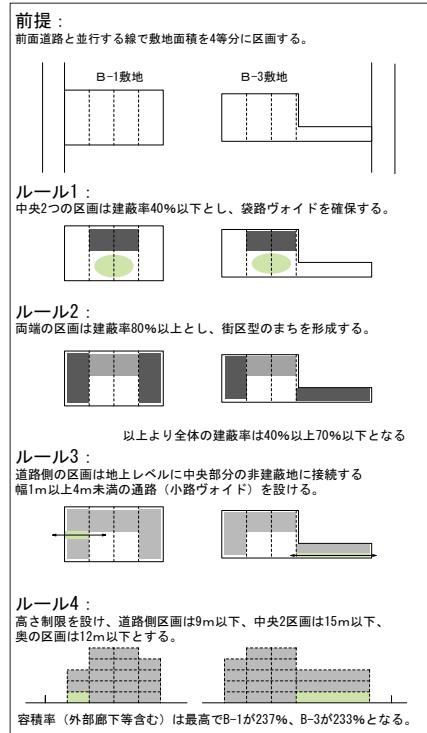
(図4) 町家と袋路の空間構成

〈設計過程〉

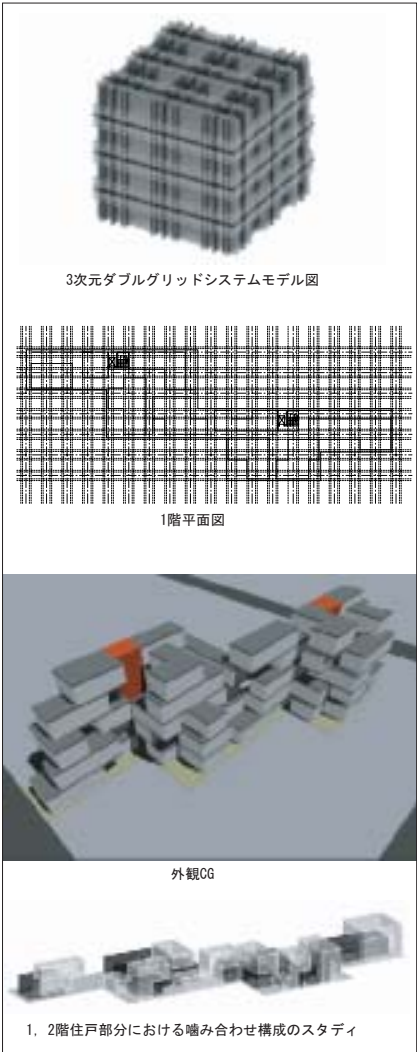
[1] 旗竿敷地における建蔽率・容積率の検証



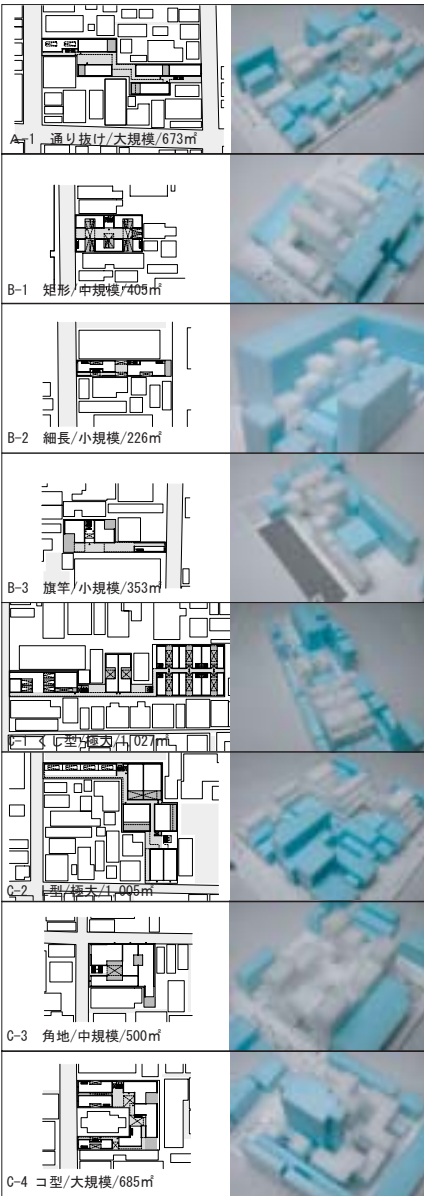
[2] 中庭と路地を確保する設計ルールを検証



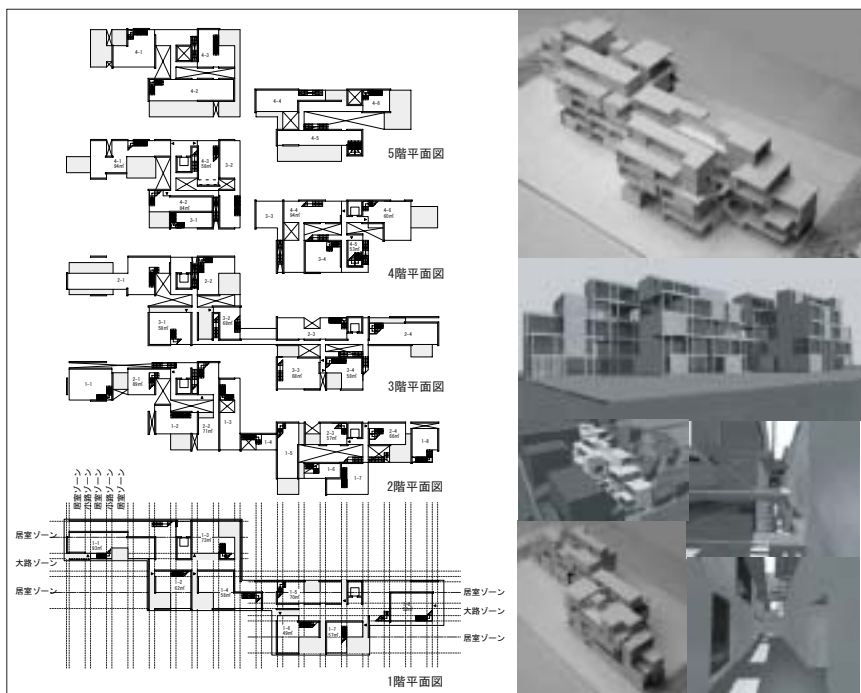
[4] 3次元ダブルグリッドシステムの検証

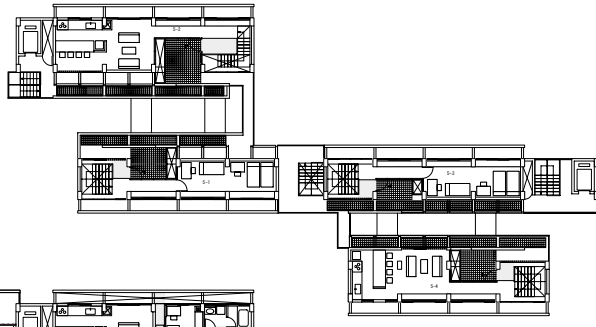


[3] 8つの敷地における設計指針の検証

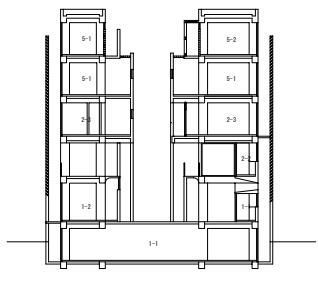


[5] 大路・小路ゾーンシステムの検証





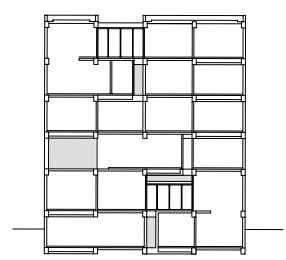
5F PLAN



SECTION



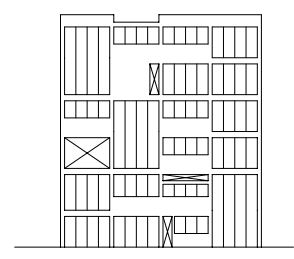
4F PLAN



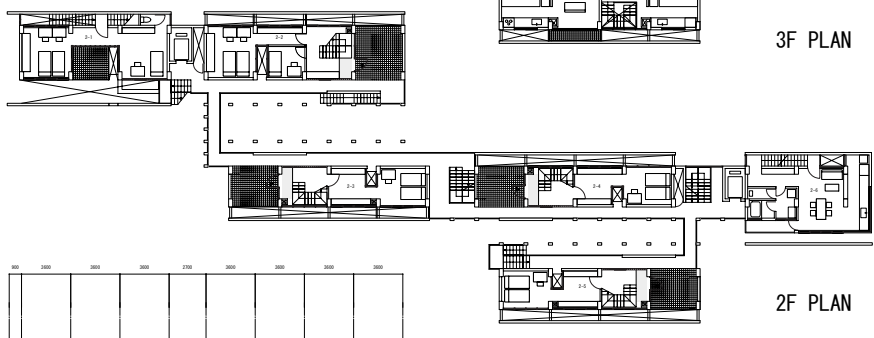
SECTION



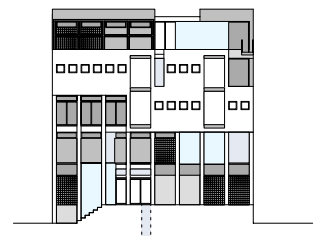
3F PLAN



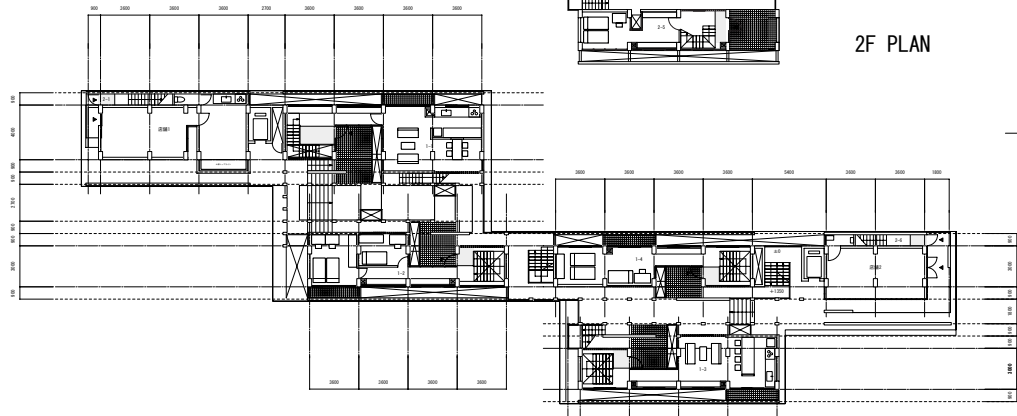
ELEVATION



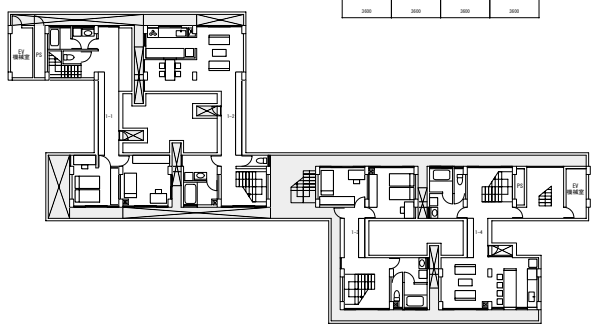
2F PLAN



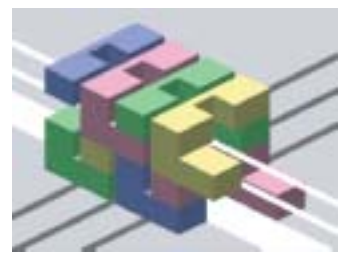
ELEVATION



1F PLAN



B1F PLAN



L型メゾネット住戸の
重ね合わせモデル図

